

「夢と感動をみんなへ」

西部中学校 松岡 明咲さん

「ありがとう！すごく楽しかったよ！」

私はその言葉をもらう度、心が澄み渡るような嬉しい気持ちでいっぱいになります。

私は人を楽しませるのが好きです。小学生の頃はレクリエーションの企画に精を出し、中学校に入ってから運営委員や生徒会でイベントの企画を考え、実行してきました。何かを計画するのは大変なことも多いですが、楽しんでもらえた時の達成感が病みつきで、また頑張ろうと思える原動力になります。

「イベントプランナー」私はその仕事を知ったのはつい最近のことでした。イベントプランナーとは、企業から依頼されたイベントを成功させるためにサポートする仕事のことで。コンサート、ライブ、スポーツイベントなど、様々なイベントの企画から運営までを行うので、多くの人と関わる仕事があります。私の好きなことが詰まったその仕事を知ったとき、思わず胸が高鳴りました。そして「もっとイベントプランナーについて知りたい」という思いが強くなっていきました。

人を楽しませることが、私にとって特別なことだと気が付いたのは、去年の文化祭の時です。当時生徒会に入っていた私は、生徒会の企画で劇を披露することになりました。ところが、そこには多くの困難が待ち受けていました。みんなで集まれる時は少なく、考えがまとまらない日々。それぞれが思いを持って参加していたので、互いの意見も多くぶつかり合いました。こんな状態で本番に間に合うのだろうか。私は大きな不安に押しつぶされそうでした。それでも、みんなで夜遅くまで話し合って台本を考え、練習を重ねていくうちに、劇は形になっていきました。自分たちの手で劇が作り出されたあの時の感動は、今でも忘れられません。いろいろ挑戦してみて、沢山回り道をしたからこそ、得られた達成感や充実感はとても大きなものでした。

そして迎えた本番当日。劇をみた同級生や先輩たちからも「面白かったよ。ありがとう。」と声をかけてもらい、私は喜びで胸がいっぱいになりました。イベントを通して、みんなに楽しんでもらえる。イベント好きな私にとっては夢のような話です。こうして私は、イベントの企画・運営をする側の楽しさにだんだんはまっていきました。

イベントプランナーのやりがいについて調べた時、「人に夢や感動を与えられること」という声が多くありました。人の笑顔を間近でみられるイベントプランナーは、私にとって魅力に満ちた憧れの仕事です。

しかし、その反面で大変なことも沢山あります。スケジュールに追われて労働時間が長くなるのは当たり前。特に、イベントの多いゴールデンウィークなどの時期は、想像を絶するほど大変だと聞きます。それでも、人に夢や希望を与えられるこの仕事が、私にはとてもキラキラして見えました。まだまだ未熟な私ですが、これからの日々の中でたくさんの方に挑戦して、少しずつこの仕事に近づけるように努力したいです。

今回将来の夢について考えてみて、私の中で二つの夢ができました。

一つ目は、イベントプランナーの仕事を通じて、沢山の人に夢や感動を与えることです。イベントには、人々を笑顔にできる素敵な魔法があります。見た人の心を突き動かしてはなさない。そんなものを、私はこの手で作りたいです。

二つ目は、自分の考えた企画で、地域の活性化に貢献することです。過疎化などで衰退してしまった場所に、再び人を呼び戻し、笑顔のあふれる社会にしたいです。

イベントプランナー。この仕事で、夢と感動をみんなへ届けます。